

万国博覧会史に刻む足跡

——日本に「開催国マインド」は可能なのか

佐野 真由子氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）

2022年11月18日（金） 16:40～18:10



1862年に初めてロンドン万博に参加して以来、万国博覧会は、日本が国際社会で自国の位置を探り、向上させようとするうえで、最重要と言ってよい舞台となってきました。万博に「参加すること」から「開催すること」への転換が、1970年に至って実現したことは周知のとおりです。今また、2025年の万博開催に向けた準備が進んでいます。日本はここで、どのようなリーダーシップを発揮できるのでしょうか。

170年にわたる万博の歴史の上に、日本が刻んできた足跡を振り返りながら、来る万博の意義を皆さまと議論することを楽しみにしております。

ケンブリッジ大学MPhil（国際関係論）、東京大学博士（学術）。国際交流基金、UNESCO勤務ののち、静岡文化芸術大学、国際日本文化研究センター等を経て現職。万博学会を主宰し、『万国博覧会と人間の歴史』（編著、思文閣出版、2015）、『万博学—万国博覧会という、世界を把握する方法』（同、2020）を刊行。他の著作に『幕末外交儀礼の研究』（思文閣出版、2016）、『クララ・ホイットニーが綴った明治の日々』（臨川書店、2019）等。

- 開催：対面とオンライン（Zoom）による同時開催
お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ2階 多目的ホール
- 対象：一般・本学学生・教職員（参加費無料）
- 申込：11月16日（水）までに、QRコードまたはメールアドレスからお申込みください（info-leader@cc.ocha.ac.jp）



主催 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

